

2024年度賛助会へのご賛同、ありがとうございました。

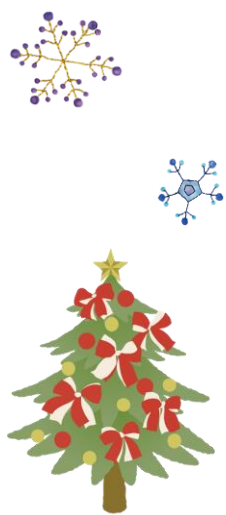
池尻幸司様、塩田文音様、眞鍋幸子様、泉川妙子様、溝口三千子様、倉本和子様、前田善晴様、丸尾幸雄様
特定非営利活動法人きずな様、社会保険労務士法人田中事務所 田中亜紀様、
株式会社 Faro 相談支援事業所ポンテ様、天野勲様、植山文雄様、社会福祉法人萬象園 理事長 守家敬子様
相談支援事業所光と風 大西末香様、社会福祉法人丸亀市社会福祉協議会 会長 横田拓也様
赤崎すみ子様、岡崎由起美様、松浦和美様(順不同)

FaceBook で活動報告・
店舗営業情報発信などなどしています～！

クリスマスクラフトデー

精神保健福祉士 山崎春菜

12月22日(日)にマルタスにてクリスマスクラフトデーに出店しました。福祉 works MANMARE が主催で、お声掛けをいただき参加しました。手作りであたたかく、人のつながりを感じられる場所という今回のコンセプトに沿い、来場者が楽しめるよう、会場で駄菓子袋詰めワークショップを開きました。また、たんぽぽのクッキーも手に取りやすいように 100 円での販売でした。当日、バザー会場にてリハーサルなしでワークショップを開くというたんぽぽ初の試みに、お話を頂いた頃には少し動揺もありました。しかし振り返ってみると、新たな挑戦ができたように思います。当日の会場はクリスマスムード満点で、それぞれがクリスマスに因んだ姿で活躍していました。学生ボランティアの方も手伝いに来てくれており、来場者も多く、買い物やワークショップ、活動報告や演奏など、それぞれのクリスマスを楽しんでいる様子でした。



編集後記

報告のとおり、怒涛の秋のバザーシーズン中は、嬉しい悲鳴をあげながら賑やかに製造・販売を行いました。そのため、土曜日に駄菓子屋店舗をお休みせざるを得ないことが多くなり、お客さんにはご迷惑をお掛けした面もありました。事業所の外に出る活動の報告がメインとなっていますが、バザー出店の他にも駄菓子の袋詰注文やクッキーの特別注文、お客さんに人気の新聞袋製造など、日常もこつこつと作業にかかっています。今後のLIFE ではそのあたりも報告に載せることができればよいなあと考えています。(H.Y)

LIFE

第76号 2025年2月15日発行

特定非営利活動法人S A J A (サヤ)
就労継続支援B型事業所 たんぽぽ
〒763 - 0066 丸亀市天満町 1 - 2 - 31
TEL : 0877 - 22 - 2840
HP tanpopo-saja.com

「繋がりを大切に」

理事長 村井 誓子

日頃は当就労継続支援 B 型事業所たんぽぽの諸活動に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「たんぽぽ」では昨年の秋以降、通常の活動をおこないつつも多くのバザーやマルシェ等に参加しました。文化交流祭、まるっとえにし市、ハロウィンマルシェ、ふれあい城坤秋祭り、四国学院大学 Wel-Fes、人権フェスタ、子育てフェスタ、クリスマスクラフトデー等です。例年参加しているものと、昨年から初めてお声掛けがあり参加したイベントもあります。基本は地元のイベントで尚且つ趣旨に則り参加しますが、事業所のことをより広く多くの方々に知って貰う機会となっています。昨秋はメンバー・スタッフが参加できるイベントには積極的に出掛けて行き地域の方々と様々な形で交流ができました。

日々、目の前の仕事に追われると何のためにおこなっているのかを忘れがちになったり、以前とは全く違う今の法体制の中での活動では、大切にしなければならないものを見失うことが多々あります。そうならないためには、様々な方々と繋がっておく必要があると考えています。同じ想いや考え方を持った先達や他団体、全国組織などと繋がり、時には立ち止まって自分自身を振り返り、何度も福祉の原点に立ち返り考えながら諦めぬよう活動を続けていかなければなりません。

「誰もが主役の地域社会を目指して」をスローガンに、これからも様々なことに挑戦していきたいと考えています。今後とも変わらぬ皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

当事者研究

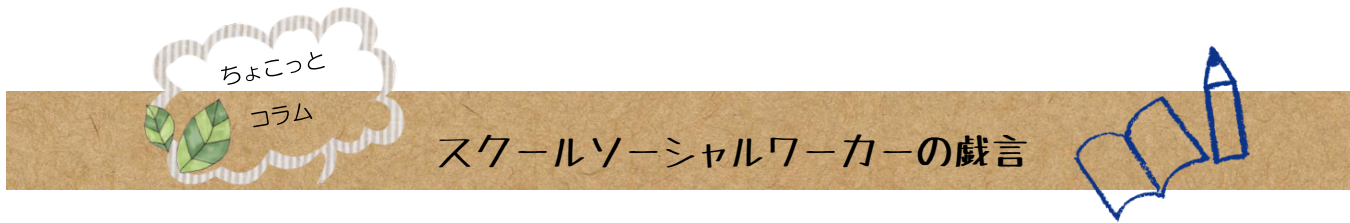
2024 年 9 月 14 日・11 月 16 日に、定例の当事者研究を実施しました。各回 6 名・4 名の参加者にて研究が行われており、ピックアップして報告します。

応用版当事者研究を行った 11 月 16 日の会での研究は田部杉子(たべすぎこ)。忙しい日常に翻弄される中、自分の食事のコントロールが効かなくなっていく…。多くの方が一度は経験したことのある苦労ではないでしょうか。普段の日常に潜む苦労を、参加者みんながそれぞれに持ち出して、客観的に眺めてみる。そんな時間を重ねています。

インプロ

2024 年 9 月 28 日午後に、総勢 10 名でインプロワークショップを実施しました。輪になりアイスブレイクを行った後、即興で場面と状況を展開させるゲームの「次はどうなる？」や、ある一場面や当たり前の言動に、喜怒哀楽、その他の感情を重ね、あらためて演じる「エモーショナル・リプレイ」というメニュー、最後に「ワン・ヴォイス」を行い終えています。

芝居の中に他者をいかに迎えるか、隣人とどんな関係をつくるのか、他者に共感し、他人の思いに気持ちを寄せられるのか等、福祉や教育の世界で人にかかわることを学ぶ際、演劇を活用した取り組みにはヒントが沢山詰まっていると感じたとのことです。



副理事長 西谷清美

生徒達が、学校生活に適応するために無意識に用いる生物学的、心理学的方策として没個性化があります。なるべく目立たないようにして、教師からの注意や指導(否定的な評価)、働きかけ、さらには他の生徒からの負の干渉(いじめ、その他の対人関係上の問題)から逃れるというものです。具体的には、服装や髪形、持ち物、生活態度、言葉遣い等を教師(校則を含む)の指示に従い、極力自己主張や感情表出は控えて、他の多数派の生徒との同質性を維持して行動するというもので、多くの生徒は意識しているか否かにかかわらず、これら同調行動によって学校生活に適応していると言えます。生物がその捕食者の目から逃れるために擬態という方法を用いることは広く知られていますが、ある種の環境下、集団への適応において同調行動は、擬態と同様に基本的かつ効果的な方法のひとつです。

さて、問題は生徒達が学校生活を送る上で身に付けたこの同調行動が、その後の人格形成や人としてのあり方に少なからず影響を与えているということです。例えば、大学生になっても、他者関係において自らを表現する術(経験を含む)を持ち得ないために、学友との交流の機会を失ったり、講義内容に対する質問や意見を発想することができないばかりか、信念や価値観までもが集団への同調の結果になっていたりします。

また、社会人ともなれば、生活の細部において他者との交渉は避けて通れず、その際に同調はできても、他者とは異なる自らの考えを主張、表現し、行動することができないとなると、職業生活はおろか家庭生活にも負の影響が生じることが懸念されます。

さらに深刻な問題として、同調行動に徹する者は、しばしば集団に同調しない者に対する嘲笑や非難、中傷、いじめ等を行なう傾向があるということです。個性的であることが周囲からは脅威として攻撃的になるのかもしれませんが、かといって私たちの社会生活は、家庭、学校、職場等、いずれも集団の場である以上、周囲の他者と協調し協働することが個人に求められる大切な資質であることも確かです。

ここで、教育に携わる者は、立場や意見の異なる者が協力し合うこと(協調)と、単に他者集団に調子合わせること(同調)の違いについて考察しておく必要があります。なぜなら、協調は個性を尊重していますが、同調は個性を喪失させてしまうからです。その意味において、仮に学校教育が生徒に同調行動を求めているのだとしたら、その功罪は極めて大きいと言えます。

いずれにしても、人間の発達にとって同調行動は、環境やシステムに適応することと引き換えにするにはあまりにも負の影響が大きいのです。児童生徒個々の個性やオリジナリティが真の意味において尊重され、人間の多様性を許容できる社会を構築するためには、どのような教育を目指すべきか、そろそろ真剣に検討する必要があります。

生徒を利用者(障害当事者)に、教師を支援者に、教育を福祉に、そして学校を私たちの職場に置き換えて考えてみてください。



2024 年 10 月 27 日(日)、みなくる広場にて城坤バザー秋祭りに出店しました。例年であれば城坤小学校が会場ですが、校舎が耐震工事中とのことで今年はみなくる広場でのバザーとなりました。前日まで雲行きが心配でしたが、当日は雨に降られることもなく気持ちのいい天気で販売することができました。地元の子どもたちの元気いっぱい演技や伝統である獅子舞乱舞、おいしいバザー販売等に混ざり、たんぼぼも地域の中のひとつのお店として販売ができたと思っています。お客さんや地元の方との交流もあり、メンバー・スタッフ共に楽しく、やりがいを持ち販売ができました。新しいことを始めることも、昔からあることを続けることも、どちらも大切に活動をしていきたいと思います。(精神保健福祉士 山崎春菜)

11 月 2 日(土)に四国学院大学で Wel-Fes in SGU2024 が開催され、たんぼぼもふれあいマルシェ販売と当事者研究に参加をしました。

当日は、実践報告会や他のプログラムが開催され、午前中から多くの方が参加していました。販売は、クッキーに加えて駄菓子の袋詰めと手作り雑貨を販売し、以前からたんぼぼを知ってくれている方は、商品をリピート買いしてくださり、来場者やスタッフの方々とコミュニケーションを取りながら楽しく販売することができました。また、たんぼぼの他にもキッチンカーが 3 店舗出店しており、お昼時は多くの方で賑わっていました。

当事者研究は、たんぼぼから 7 名が参加し、一般の申し込み者 6 名と併せて 13 名で行いました。一般申込の中に、以前たんぼぼで勤務していたスタッフも参加しており、久々の再会を喜び合いました。そして、いざ始まりを迎えると、最初は緊張感が漂っていましたが、徐々に一般申込の方からも意見が出始めて、様々な角度からの意見を聞くことができました。初めて会う人たちとの取り組みということで、普段と違った緊張がありましたが、一つのことを全員で話し合い、対話を深める時間はとても楽しいものでした。(精神保健福祉士 宮本雄太郎)

2024 年 12 月 21 日(土)アイレックスにて開催された「まるがめ子育てフェスタ&まるマルシェ」参加してきました。このイベントは毎年開催されていますが、たんぼぼは 2 年ぶりの参加です。今年は、「こどもの声を聴こう!! 目指せ! こどもまんなか社会」というコンセプトで開催されています。

子育て支援にかかわる様々な団体が、子育ての情報発信や、遊び体験など、楽しめる催しが沢山あり、家族連れの方がたくさん来場されていました。たんぼぼは、この時期限定の焼き芋販売に加え、クッキーと雑貨を販売しました。朝が早かったけれど、メンバーは慣れた様子で準備をして、接客対応も完璧にこなしてくれていました。お客さんの中には「たんぼぼのクッキー美味しいよね」や「〇〇の店でクッキー置いてるよね! 買って美味しかったから」とまた買ってくれたり、嬉しい声が聞かれています。

バザーに出ることで、お客さんの声も励みになり、他の出展者さんとも交流することができたりと、商品売ることに以外に得るものが沢山あると感じています。(主任 小西靖代)

